

京都議定書 誕生20周年

持続可能な都市文明を

左京 地球環境会議で宣言

先進国に温室効果ガスの削減義務を課す京都議定書の誕生20周年を記念する「地球環境京都会議」が10日、京都市左京区の国立京都国際会館で開かれた。京都議定書とパリ協定を踏まえ、環境と調和した持続可能な都市文明の構築を目指す「京都宣言」を発表した。

京都議定書は1997年12月11日に京都市で開かれた気候変動枠組み条約第3回締約国会議（COP3）で採択された。昨年発効したパリ協定は、今世紀後半の温室効果ガス排出実質ゼロを掲げ、途上国も取り組む

む枠組みとなった。地球環境京都会議はCOP3の会場となった京都国際会館で「気候変動への更なる挑戦 京都議定書からパリ協定へ」をテーマに京都市が開催し、18の国・地域から約1千人が参加した。京都宣言には温室効果ガ



京都議定書誕生20周年を記念して「京都宣言」を発表した地球環境京都会議（10日午後5時40分、京都市左京区・国立京都国際会館）

スの大排出源である都市の「責務」が盛り込まれた。都市は国家や市場の原理に任せるだけでなく、権限と財源を確保した上でリーダーシップを発揮する必要があると明記された。

基調講演で、総合地球環境学研究所の安成哲三所長が「各国の都市や企業体が協働する『真の低炭素化』が求められている」と強調した。分科会は、環境問題に取り組む世界1500以上の都市をつくる国際組織

「イクレイ」のジノ・ヴァン・ベギン世界事務局長や、加盟自治体の代表のほか、アルビニストの野口健さんなどが参加した。都市間連携などの3テーマで議論した。

（吉永周平）